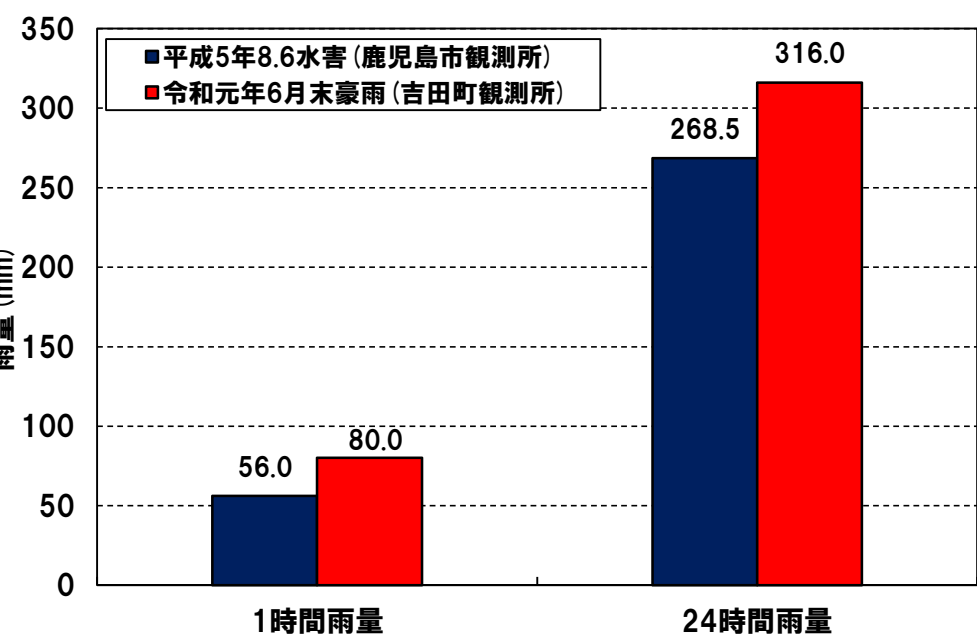


令和元年6月末からの大雨に関する砂防事業の効果

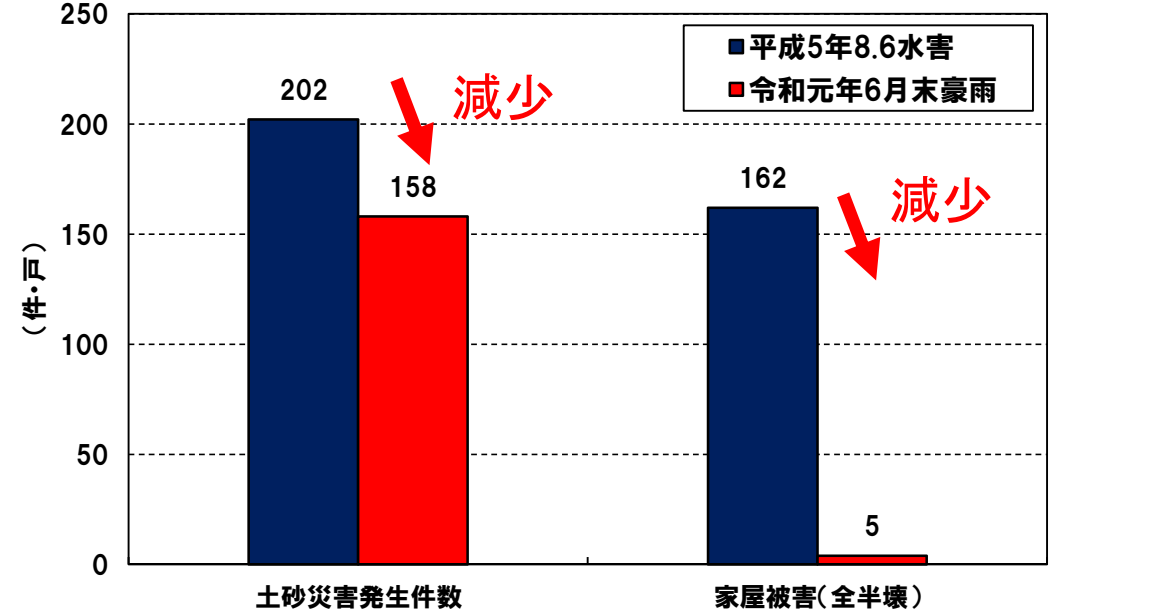
ハード整備による事業効果(鹿児島県)

○鹿児島県では、平成5年の8.6水害を受けて、近年大きな被害を受けた地域等に砂防関係施設を重点的に整備してきた結果、土砂災害の発生件数及び被害が減少している。

○降水量の比較



○鹿児島県内における土砂災害の発生件数及び家屋被害の比較
(令和元年8月19日時点)



○砂防関係施設の整備状況

	平成5年	平成30年度末	増減
砂防関係施設設置箇所	871箇所	1,785箇所	914箇所増加
整備率	20%	36%	16%増加

※整備率: 対策を必要とする箇所数に対し、施設が設置されている箇所数の割合
 ※施設設置箇所数は、土石流、急傾斜、地すべり対策施設の合計値

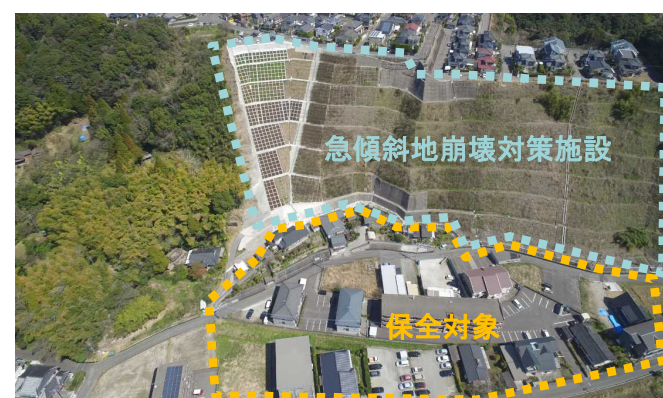
鹿児島県公表資料を基に作成。

○施設効果事例



砂防関係施設が崩壊土砂を捕捉
(鹿児島市坂之上地区)

○砂防関係施設



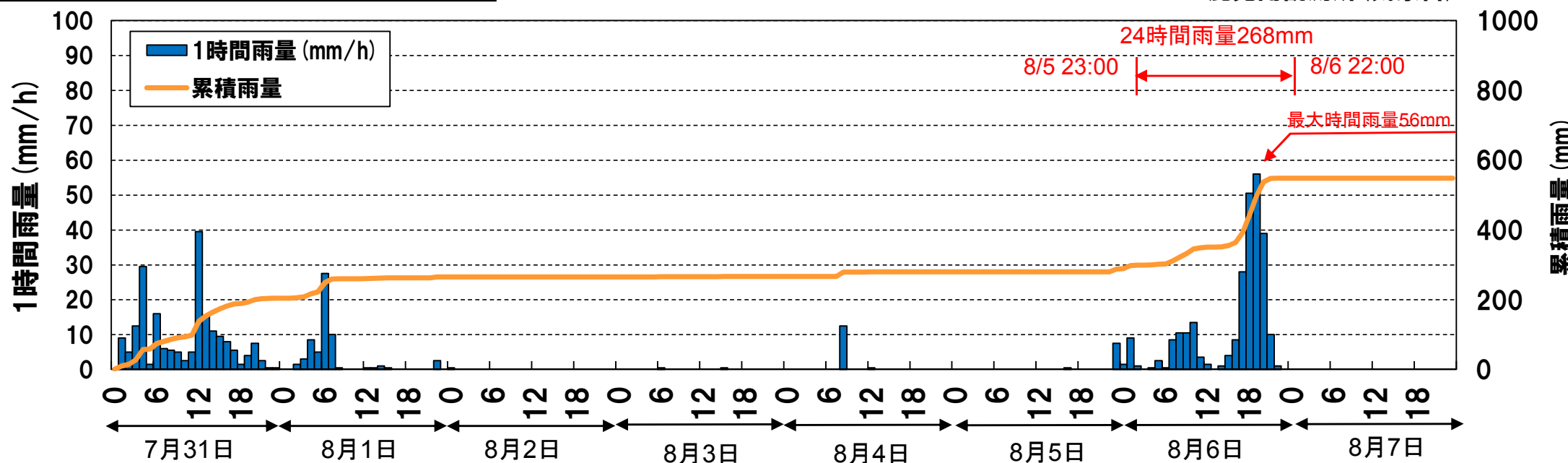
急傾斜地崩壊対策施設
(鹿児島市田上)

令和元年6月末からの大雨に関する砂防事業の効果

雨量情報(鹿児島県)

○平成5年8・6水害における累計雨量

鹿児島観測所(气象台)



○令和元年6月下旬からの大雨における累計雨量

吉田町観測所(県)

